

エコアクション21
環境活動レポート
(期間：平成28年4月～平成29年3月)



KYODO GROUP

—あらゆる建物の快適と安心をかたちに—
—あらゆる建物の快適と安心をかたちに—

共同グループ

発行年月日：平成29年5月9日

目 次

| | |
|-----------------------|----|
| 目 次 | 1 |
| 1. 社長挨拶 | 2 |
| 2. 環境方針 | 3 |
| 3. 事業の概要 | 4 |
| 4. 組織 | 5 |
| 5. 環境目標 | 6 |
| 6. エコオフィス活動【環境活動取組事項】 | 7 |
| 7. 環境活動の取組結果 | 8 |
| 8. 環境活動の取組結果の評価 | 12 |
| 9. 今期エコ活動 | 14 |
| 10. 環境関連法規への違反、訴訟の有無 | 15 |
| 11. 代表者による総評 | 16 |

1. 社長挨拶

経済の混迷とともに私どもが携わる三業界も事業環境が大きく変化し新たな局面を迎えております。こうした激しく変動する時代を前向きに変革のチャンスと捉え、従来からの考え方や事業活動を見直し改めその時々でユーザー様が求めている真のサービスと価値が何であるかを見出し、そのご期待に応えられるよう3社それぞれが進化向上するための日々の努力を重ねております。

私どもはさらに高品質で優良なサービス、環境問題、雇用問題の解決にも繋がる企業として発展成長していくため、広範囲で異業種企業様との連携・提携を推し進めながらビルメンテナンスを基本に指定管理者制度、PFI 事業といった公益的なビルマネジメントを通じ資本整備業としても社会に貢献していきたいよう一層の努力と研鑽を積み上げていきます。

当社の基本理念である「あらゆる建物の快適と安心をかたちに」を全社員が深く理解し、お客様から信頼され続けていけるよう今後も歩みを止めることなく事業活動に邁進していく所存でございます。

今後とも引き続きご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



株式会社共同

代表取締役社長 有賀 公哉

2. 環境方針

環境方針

当社は21世紀を環境世紀ととらえ
【環境美の創造と提供】を基本に
ビルマネジメント事業を通じて
衛生的環境の確保と保全に努め
健康で豊かな社会の実現に取り組みます。

《行動指針》

1. 当社の事業活動における自分の仕事を理解し、スキルアップを通じてその活動が、環境保全を含め周囲に対してどのように貢献できるのか常に考えます。
2. 法令順守はもちろん関係規則を厳守し、また社員各々が社内ルールを守ることにより一層の環境保全と規律をもった自社業務に努めます。
3. 効率的で高品質な業務を行うことにより、省資源・省エネルギー化をより推進し、自社及びお客様のオフィス活動に貢献します。
4. 当社の業務教育は、業務そのものが環境を良好に保つ仕事であることを理解させ、その評価を広報活動に発揮できるように研修会を定期的実施します。
5. 環境目的・目標を定め、省資源・省エネルギー・リサイクル・廃棄物の削減・グリーン購入の推進を行い、環境汚染の予防に取り組み、定期的に見直します。

平成23年7月27日
共同グループ

代表取締役 有賀公哉

3. 事業の概要

2-1 事業者名及び代表者氏名

共同グループ
代表取締役 有賀 公哉

2-2 所在地

- 株式会社共同本社：静岡県浜松市東区子安町315-13
- 静岡支店：静岡県静岡市駿河区稲川二丁目2-1セキスイハイムビルディング2F
- 名古屋営業所：愛知県名古屋市東区東桜2-9-34 成田ビル1F
- 株式会社リアル：静岡県浜松市東区子安町315-13
- 株式会社エヴァーブルー：静岡県浜松市東区子安町315-13

2-3 対象範囲

対象組織：株式会社 共同 本社
株式会社 共同 静岡支店
株式会社 共同 名古屋営業所
株式会社 リアル
株式会社 エヴァーブルー
対象活動：総合ビルマネジメント
(清掃管理業務、環境衛生管理業務、マンション管理業務、警備業務)

2-4 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者：総務部 山田 久美子
連絡先：TEL 053-464-4108 FAX 053-465-5893、e-mail kyodo-bm@kyodogroup.co.jp

2-5 事業内容

総合ビルマネジメント業務

2-6 事業登録番号

- ◆建築物環境衛生総合管理業/浜松市20総 第202号
(平成26年1月24日～平成32年1月23日)
- ◆建築物飲料水貯水槽清掃業/浜松市2貯 第5号
(平成23年11月29日～平成29年11月28日)
- ◆建築物排水管清掃業/浜松市15排 第3号
(平成27年1月19日～平成33年2月18日)
- ◆マンション管理業/国土交通大臣(2) 第053299号
(平成25年1月19日～平成30年1月18日)
- ◆警備業/第49000431号
(平成27年6月7日～平成32年6月6日)

2-7 法人設立

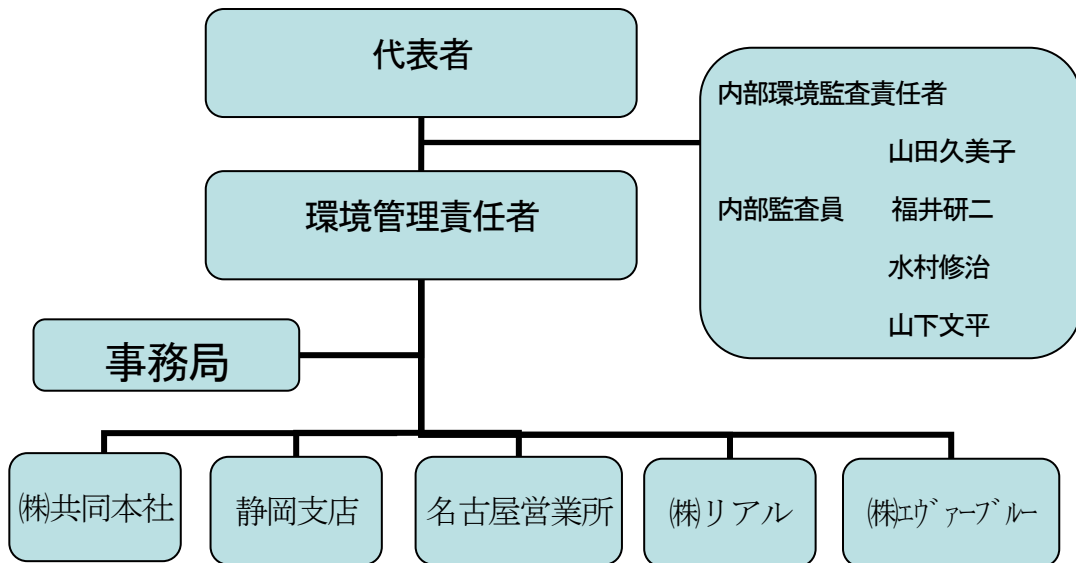
昭和53年4月12日

2-8 事業規模

資本金：(株)共同10,000千円 (株)リアル 10,000千円 (株)エヴァーブルー 10,000千円
従業員数：225名(常勤職員数に換算した人数)

4. 組織

3-1 組織図



3-2 役割分担

| 組織名称 | 役割、責任 |
|--------------------|---|
| 代表者 | <ul style="list-style-type: none"> *環境管理責任者・内部環境監査責任者を指名 *環境方針の決定 *環境活動レポートの環境目標及び環境活動計画を承認 *環境責任者からの報告をうけて、必要に応じてシステムを改定 *環境経営システム構築・運営・維持に必要な資源を準備 |
| 内部環境監査責任者 内部監査員 | <ul style="list-style-type: none"> *内部監査の実施 *内部監査実施結果の問題点の是正処置の実施指示 *実施結果の社長報告 |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> *代表者の補佐 *EA21システム構築・運用・責任を担う *システムの実績を代表者に報告 *環境目標及び環境活動計画の策定 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> *環境管理責任者の補佐 *EA21システムに関する事務全般を所管 *環境関連法規等の取りまとめ、遵守状況を確認 *環境レポート及び記録の作成と管理 |
| 共同本社 | <ul style="list-style-type: none"> *EA21システムの運用・記録 *環境目標の実施事項に対する問題点の是正処置を実施 *記録の作成と管理 |
| 静岡支店 | |
| 名古屋営業所 | |
| (株)リアル | |
| (株)エヴァーブルー | |

5. 環境目標

平成26年度の環境負荷を基準値としました。また、今期からガソリン及び軽油使用量については、総量に加えて燃費の環境効率指標』による指標も追加して評価するようにしました。

| 取組項目（目標数値） | | | 平成26年度 | 平成28年度 | | 平成29年度 | | 平成30年度 | |
|---------------|-------------------------------------|--------------------|---------|-----------------------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | | | 基準値 | 削減率 | 目標値 | 削減率 | 目標値 | 削減率 | 目標値 |
| 廃棄物排出量の削減 | 一般廃棄物量 | kg | 497 | -3% | 482 | -3% | 482 | -3% | 482 |
| | 産業廃棄物量 | kg | 7,020 | -3% | 6,809 | -3% | 6,809 | -3% | 6,809 |
| 水道水使用量の削減 | | m ³ | 305 | 使用量の把握（※2） | | | | | |
| 二酸化炭素排出量の削減 | | kg-CO ₂ | 104,151 | -2% | 102,068 | -2% | 102,068 | -2% | 102,068 |
| | 電気使用量 <small>（排出係数0.513）</small> | kWh | 36,471 | -3% | 35,376 | -3% | 35,376 | -3% | 35,376 |
| | ガソリン使用量 | ℓ | 30,263 | -2% | 29,657 | -2% | 29,657 | -2% | 29,657 |
| | | km/ℓ（※1） | 未把握 | | | | | | |
| | 軽油使用量 | ℓ | 5,758 | -2% | 5,642 | -2% | 5,642 | -2% | 5,642 |
| | | km/ℓ（※1） | 未把握 | | | | | | |
| | 都市ガス使用量 | m ³ | 34 | 使用量の把握（※2） | | | | | |
| 事務用品のグリーン購入推進 | | 円 | | 全体量の10%以上 | | | | | |
| 環境に配慮した剥離剤の購入 | | ℓ | | 全体量の7%以上 | | | | | |
| 化学物質使用量の削減 | | — | | 適正な使用、無駄な使用の抑制、使用量の把握 | | | | | |

<備考>

- ※1印：全社用車燃費の平均。平成26年度は未把握であり、今後については把握するようにする。
- ※2印：使用量が少なく、これ以上削減することが難しいことから、使用量を把握することを目標とする。

6. エコオフィス活動【環境活動取組事項】

5-1 一般および産業廃棄物量の削減 責任部門：経理課 責任者：鈴木

| 項目 | 日程 |
|--------------------------|-----------|
| ◆分別の徹底 | 通年 |
| ◆月報による廃棄量の監視 | 翌月5日までに集計 |
| ◆ゴミを極力出さないよう心がける個々の意識の向上 | 通年 |

5-2 CO2 排出量の削減 責任部門：業務管理課 責任者：小林、経理課：荻野

| 項目 | 日程 |
|---|----------------------------|
| ◆社用車ガソリン使用量の把握 | 翌翌月10日までに集計 |
| ◆ミスによる突発的な動きの抑制により ガソリン・軽油の使用を減らす | 通年 |
| ◆無駄な電力の使用を抑制し、エアコンの 設定温度を厳守する（暖房20℃以下、冷房28℃以上） | 夏季7～9月 冬季11～3月 |
| ◆エアコンの使用時間の設定 | 9時～21時 |
| ◆各フロア未使用時の消灯の徹底 | 通年 |
| ◆ノー残業デイの実施 | 毎月7・15日 （上記が休日の場合は翌出勤日） |
| ◆都市ガスの無駄使用の抑制 | 通年 |

5-3 総排水量の把握 責任部門：営業管理課 責任者：片桐

| 項目 | 日程 |
|----------------|--------------------|
| ◆節水に努めるよう、呼び掛け | 使用量が多くなっている際、啓発を実施 |

5-4 グリーン購入の推進 責任部門：品質管理課 責任者：川島

| 項目 | 日程 |
|-----------------------|---------|
| ◆可能な限り、グリーン商品の購入に心がける | 事務用品購入時 |

5-5 総物質投入量調査 責任部門：業務管理課 責任者：片桐

| 項目 | 日程 |
|---------------------|--------------|
| ◆環境に配慮したワックス・洗剤等の購入 | 資機材購入時 |
| ◆購入資機材量の把握 | 翌月請求書から算出 |
| ◆化学物質使用量の把握 | 翌月請求書から算出 |
| ◆無駄遣いの抑制 | 業務ミーティングにて啓発 |

5-6 リクエスト対策 責任部門：品質管理課 責任者：山田

| 項目 | 日程 |
|-----------------------------|----------|
| ◆リクエストに対してスピーディーかつ適切に対応する | リクエスト発生時 |
| ◆お客様リクエストの原因追究と勧告 | リクエスト発生時 |
| ◆リクエスト発生数させないための個々の意識と行動の向上 | 通年（発生防止） |

7. 環境活動の取組結果

6-1 環境活動データ（実績値）

1. ≪廃棄物排出量の維持≫

| 項目 | 単位 | 平成 26 年 (基準実績) | 平成 28 年度 | | | | 判定 |
|----------|----|-------------------|----------|-------|-------|------|----|
| | | | 削減率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | |
| 一般廃棄物排出量 | kg | 497 | -3% | 482 | 414 | 114% | ○ |
| 産業廃棄物排出量 | Kg | 7,020 | -3% | 6,809 | 3,120 | 144% | ○ |

＜備考＞廃棄物については、焼却・埋め立てされるものについて記載（計上）する。

【コメント】目標達成となった。産業廃棄物排出量の半減については、自己努力に加えて昨年度実施した重要書類の溶解処理分が本年度なかったことが要因と考えられる。

2. ≪二酸化炭素排出量の削減≫

| 項目 | 単位 | 平成 26 年 (基準実績) | 平成 28 年度 | | | | 判定 |
|-----------------------|----------------|-------------------|----------|---------|--------|--------|------|
| | | | 削減率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | |
| 二酸化炭素排出量 | kg-CO2 | 104,151 | -2% | 102,068 | 75,681 | 135% | ○ |
| 電気使用量 (排出係数:0.513) | kWh | 36,471 | -3% | 35,376 | 33,340 | 106% | ○ |
| | ガソリン使用量 | ℓ | 30,263 | -2% | 29,657 | 19,570 | 134% |
| | | km/ℓ | 未把握 | | 11.2 | | |
| 軽油使用量 | ℓ | 5,758 | -2% | 5,642 | 4,981 | 112% | ○ |
| | km/ℓ | 未把握 | | | 7.6 | | |
| ガス使用量 | m ³ | 34 | 使用量把握 | | 34 | | ○ |

【コメント】二酸化炭素排出量としては、25.8%の削減が出来ており、全ての項目において目標達成となった。特にガソリン・軽油については「浜松市エコドライブ認定制度」に参加しエコドライブ実践事業所の認定を受ける等、削減に努めた結果と思われる。

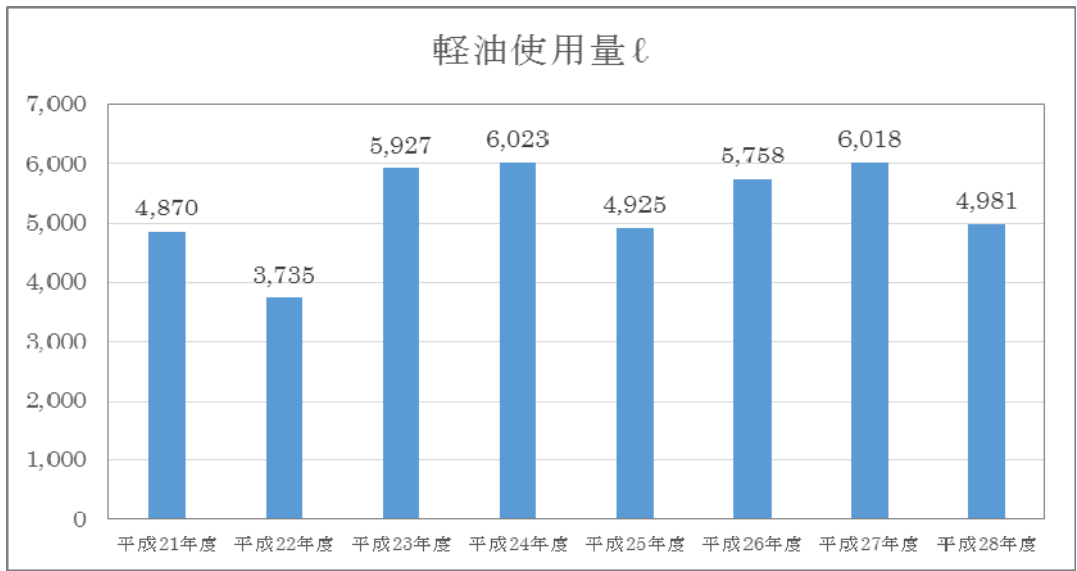
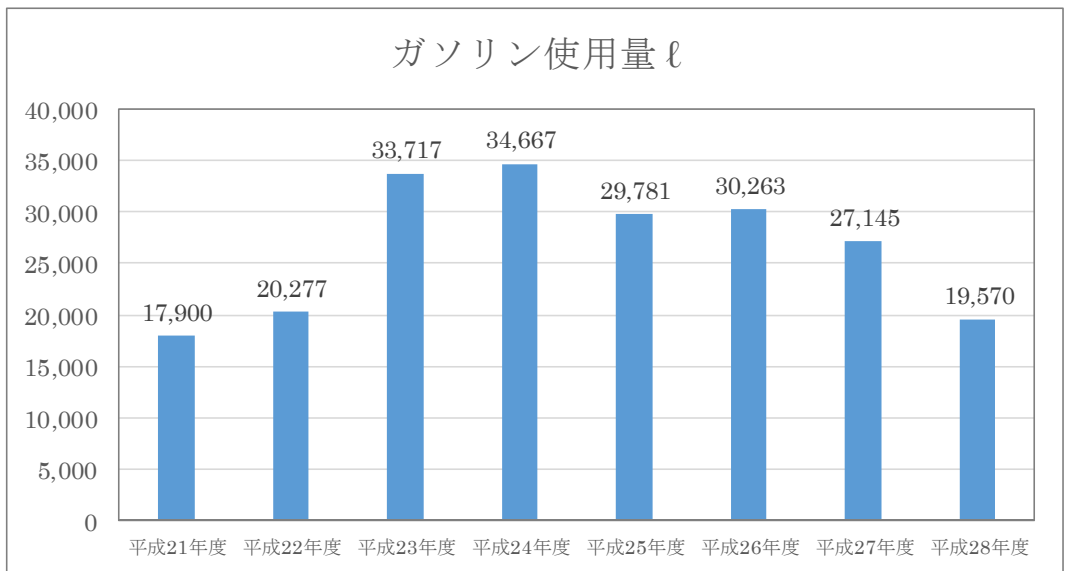
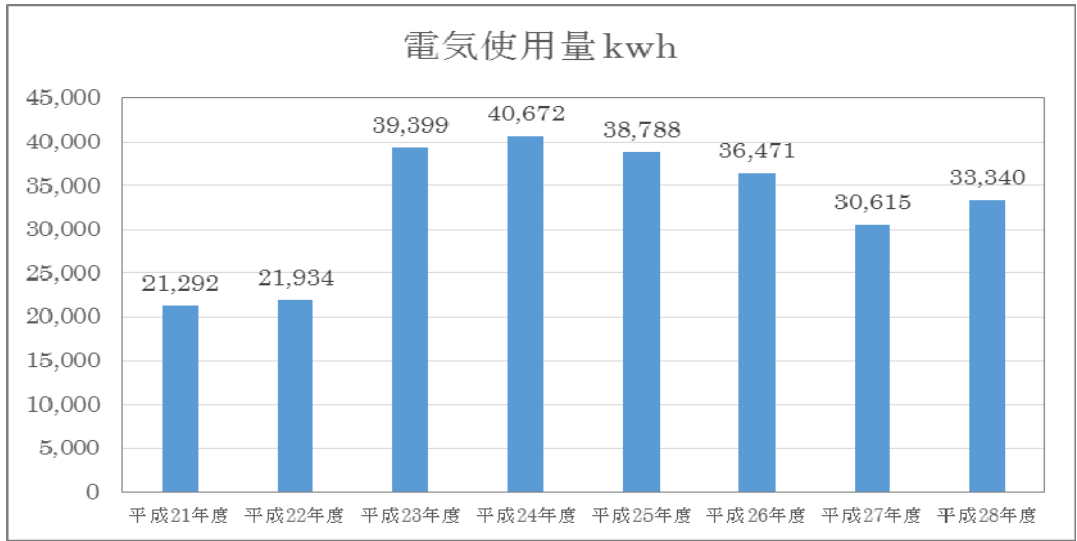
3. ≪総排水量の維持≫

| 項目 | 単位 | 平成 26 年 (基準実績) | 平成 28 年度 | | | | 判定 |
|-----|----------------|-------------------|----------|-----|-----|-----|----|
| | | | 削減率 | 目標値 | 実績値 | 達成率 | |
| 使用量 | m ³ | 305 | 使用量把握 | | 337 | | ○ |

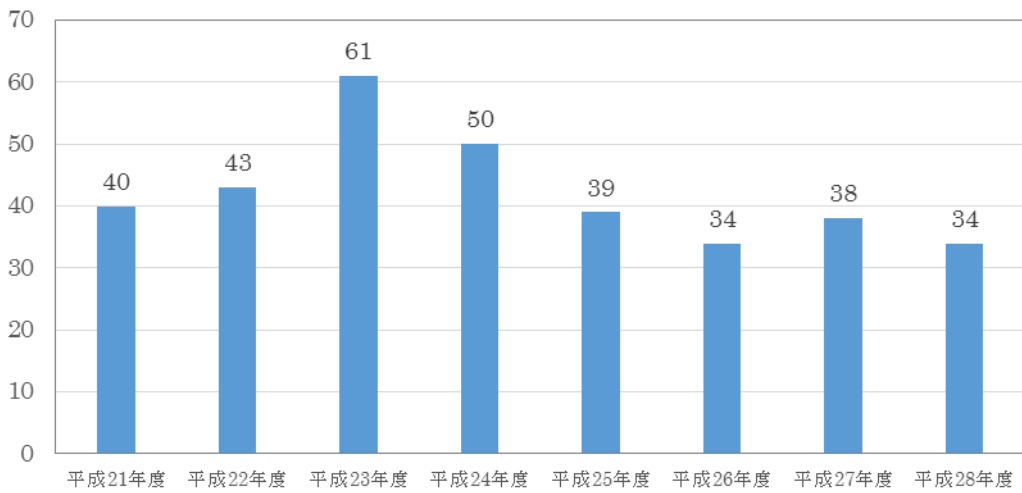
【コメント】使用水量が若干増加したが、この原因としては、業務増加と水道器具不良、自然増加が原因と思われる。

4. <環境実績の経年変化グラフ>

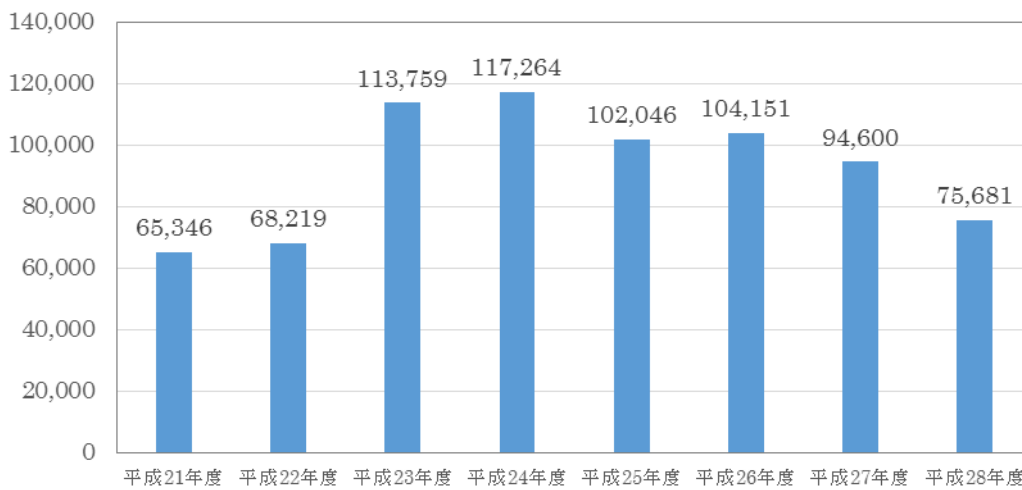
平成 22 年度までは、株式会社共同だけの取り組みでしたが、平成 23 年度からは共同グループ全体（株共同、株リアル、株エヴァーブルー）の取組に拡大した為、各項目とも増加しましたが、それ以降については低減傾向にあります。



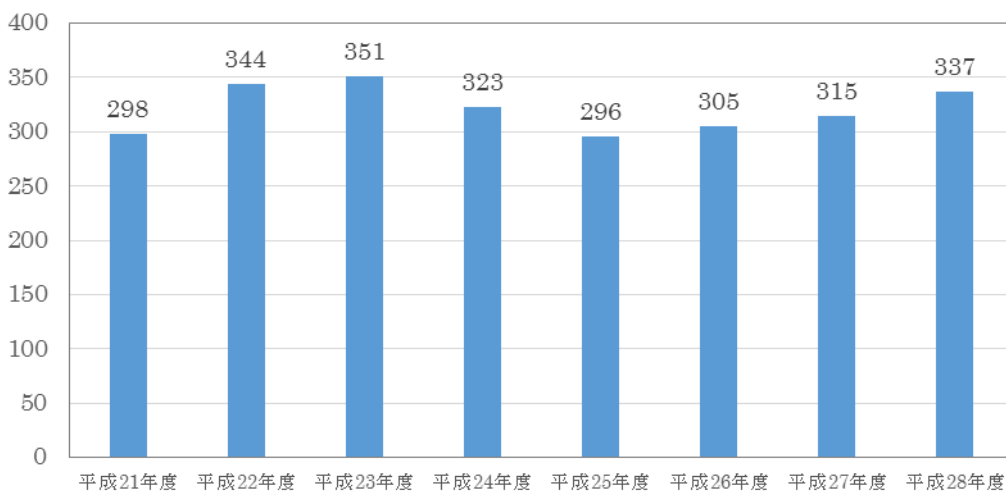
ガス使用量 m³



CO₂排出量合計 kg-CO₂



水使用量 m³



5. <<グリーン購入の推進>>

| 項目 | 平成 28 年度 | | グリーン購入製品の購入割合 | 判定 |
|--------|--------------------------------------|----------------------------------|---------------|----|
| | 目標 | 実績 | | |
| グリーン購入 | 事務用品全体購入の内 10%以上をグリーン製品となるよう購入時に配慮する | 総購入料 188,391 円 内エコ製品 36,542 円 | 19% | ○ |

【コメント】 目標達成となった。可能な限りグリーン商品購入の推進をしていく。

6. <<環境に配慮した剥離剤の購入及び総物質購入量の把握>>

| 項目 | 平成 28 年度 | | PRTR 該当しない製品の割合 | 判定 | |
|-----------|--|------------------------|-----------------|----|-------------------|
| | 目標 | 実績 | | | |
| 剥離剤の購入 | 剥離剤総使用量の内 7%以上を PRTR 法に該当する化学物質を含まない環境に配慮した製品に切り替え購入する | 総購入量 360 内 180はエコ製品 | 50 % | ○ | |
| 総物質投入量の把握 | 剥離剤、ワックス、洗剤等 | 適正な使用、無駄な使用の抑制、使用量の把握 | / | ○ | |
| | 内 PRTR 法に該当の化学物質 | | | | 4,683kg |
| | 容量把握物質 重量把握物質 | | | | 31.57ℓ 4.18 kg |

【コメント】 目標達成。剥離剤の中で環境に配慮した製品の使用を出来る範囲で行っていく様努力する。また、剥離剤以外でも投入する物質の使用量を適正に保ち、環境に負荷をかけない使用に努める。

7. <<環境リクエスト数>>

| 項目 | 平成 28 年度実績 | 判定 |
|-------------|------------|----|
| 環境リクエスト発生件数 | 0 件 | ○ |

【コメント】 環境に関するリクエストは発生しなかったが、万が一発生した場合は適切な対応を取るようにしていく。

8. <<緊急事態対応訓練>>

【対応訓練：火災発生】

実施日：平成28年10月20日



- ① 手順書の予防管理の確認
- ② 火災が発生した場合の処置
 - ☞ 火災の規模を確認し、消火器による初期消火の訓練を行った。
 - 火災発生時の初期消火活動の訓練（実際には使用せず手順の確認を行った）

*想定外の火元の可能性も考え、自分のいる位置から避難する経路において、最短の経路を確認することとした。



- ②火災が発生した場合の処置
 - 被災者がいる場合は救助を行い、安全な場所に移動する。
 - 被災者が心肺停止している場合は心配蘇生またはAEDを使用するなど応急処置を行う。
 - ☞ AED の使用方法の説明を受け、実践（電池交換時を利用）

*訓練とはいえ、人命救助にかかわるため、皆真剣に取り組んだ。



火災に備え、社内の消火器の位を確認 ☞



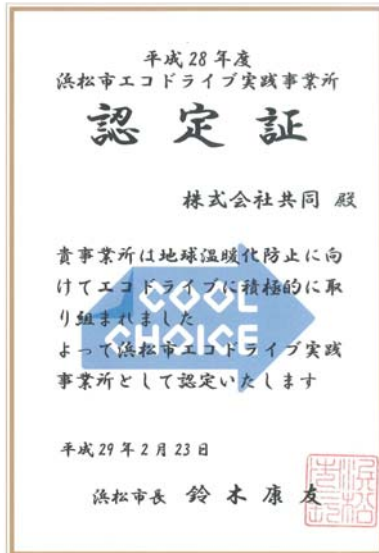
8. 環境活動の取組結果の評価

| 1. 廃棄物量の削減 | 活動状況・評価・今後の取組 |
|----------------------------------|--|
| ◆分別の徹底 | <p>産業廃棄物においては仕事量に応じて増える可能性もあるが、良い結果での目標内の推移となった。仕事内容によっては廃棄量も増えることもあるが、自社での廃棄については始末し、抑えるよう努力していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆月報による廃棄量監視 | <p>ゴミの計量を行い搬出の量の把握がされており、むやみにゴミを増やさない意識がみられ、昨年度よりも減少、目標値よりもアンダーとなった。今後も毎月滞りなく集計し、意識の継続もしていく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆ゴミを極力出さないよう心がける個々の意識の向上 | <p>昨年度同様、裏紙使用の徹底、メール等を活用し印刷を抑制・情報共有を行う。カートリッジや詰め替え、ラベル交換等再利用を推進する。資器材においても、ある物を長く使うという意識を持ちゴミの削減と同時に経費削減にも努力するよう『共同グループだより』によって現場スタッフへの啓発も続けていく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| 2. CO2 排出量の削減 | 活動状況・評価・今後の取組 |
| ◆社用車ガソリン使用量の把握 | <p>環境効率指標による把握により、燃費での評価となった。仕事量の増加はあるが、大幅に昨年度比および目標値よりも削減できている。「ふんわりアクセル」も定着し、更に『エコドライブ実践事業所』の認定に向け努力したことも良い結果につながったと思われる。優良事業所認定に向けさらに努力を続ける。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆ミスによる突発的な動きの抑制によりガソリン・軽油の使用を減らす | <p>ミスをするとその回復にとエコドライブが疎かになりがちである。単純なミスで再施行等のロスがないよう、事前準備や確認を入念に行い、余分な使用の抑制を行う。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆無駄な電力の使用を抑制し、エアコンの設定温度を厳守する | <p>使用していない部屋・部位、特に1階業務室や階段の節電や、特に夜のエアコンの使用抑制がある程度習慣化されてきている。更にノー残業デイの徹底を図り、節電につなげる。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆エアコン使用時間の設定 | <p>エアコン使用時間を9時～21時と設定しており、啓発を続けている。また、お客様に失礼のない範囲で衣服等の調節を行い、暑さ寒さ対策を行ってクールビズ・ウォームビズを更に推進していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆各フロア未使用時の消灯の徹底 | <p>階段室・業務倉庫・業務課だけでなく、各フロア・各課の部門でも細かく消灯し、他の部署でも気づいた者は消すようにする。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆ノー残業デイの実施 | <p>毎月7・15日に実施を呼びかけてきたが、業務多忙につき、なかなかまとまったの実行ができない。確実にまとまったの実行を行うため、新年度5月より実施日を15日のみとし、すべての者が18:00業務終了を実行する。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆都市ガスの無駄使用の抑制 | <p>使用量が少ないこともあり、使用した量を把握することを目標としている。28年度使用量は27年度とほぼ同じであり、妥当な処置だったと判断できる。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| 3. 総排水量の維持 | 活動状況・評価・今後の取組 |
| ◆節水に努めるよう、呼び掛け | <p>使用量が少ないこともあり、使用した量を把握することを目標としている。使用水量が若干増加したが、この原因としては、業務増加と水道器具不良、自然増加が原因と思われる。</p> <p>今後の取組：継続</p> |

| 4. グリーン購入の推進 | 活動状況・評価・今後の取組 |
|-----------------------------|--|
| ◆可能な限り、グリーン商品の購入に心がける | <p>目標は達成しており、購入金額は大幅に減少している。事務用品の再利用とカートリッジ等の使用を推進し、金額に差がないものはグリーン商品を購入していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| 5. 環境に配慮した剥離剤の購入及び総物質購入量の把握 | 活動状況・評価・今後の取組 |
| ◆環境に配慮した剥離剤・ワックス・洗剤等の購入 | <p>剥離剤について、環境に配慮した物の使用をすすめていくものとする。剥離作業の件数は増えたが、使用量は削減できている。また、洗浄剤は強アルカリイオン電解水の使用により抑えられている。全体で環境に負荷をかけない状況を今後も推進していきたい。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆購入資機材量の把握 | <p>把握できている。無駄をなくし、ある物を清潔に保ち丁寧に扱うことで長く使用するよう努力・啓発していく。今後もしっかり把握していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆化学物質使用量の把握 | <p>把握できている。今後もしっかり把握していく。新しくケミカルを選定し購入した際にはP R T R法に係る製品かどうかをしっかりと把握していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆無駄遣いの抑制 | <p>資材購入状況からは、ほぼ適正に使用されていると判断する。更に無駄のないよう継続していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| 6. 環境リクエスト数 | 活動状況・評価・今後の取組 |
| ◆リクエストに対してスピーディーかつ適切に対応する | <p>環境に対してのリクエストはなかったが、発生した場合は正しく状況を把握し、タイムラグなく迅速に適切に対応していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆お客様リクエストの原因追究と勧告 | <p>環境に対してのリクエストはなかったが発生した場合は、原因を追究する。</p> <p>今後の取組：継続</p> |
| ◆リクエスト発生数させないための個々の意識と行動の向上 | <p>環境に対してのリクエストはなかったが発生した場合は迅速に対応していく。</p> <p>今後の取組：継続</p> |

9. 今期エコ活動への取り組み

『浜松市エコドライブ実践事業所』の認定を受けました！



浜松市が行う「平成28年度浜松市エコドライブ認定制度」に参加し、積極的にエコドライブに取り組んだ事業者として『浜松市エコドライブ実践事業所』の認定を頂きました。浜松市が「浜松市地球温暖化対策実行計画」に基づき、市域における二酸化炭素排出量の削減を目的として行ったこの取り組みには41の事業者が参加し、期間中（平成28年12月1日～平成29年1月31日）に3,270kg-CO₂（杉の木の一酸化炭素吸収量に換算すると約233本分）二酸化炭素排出量と、ガソリン1,410リットルの削減となりました。

今後の予定として、平成29年11月に実践事業所から「優良事業所」としての認定を受けることができるよう引き続き認定事業者としてエコドライブを心掛け、二酸化炭素の削減に努めてまいります。



蛍光灯のLED化を推進しています！



2階
共同・エヴァグループ推進部

本社内屋内の一部はLED化されている部屋もありますが、今年度3月に3部署（3部屋）合計42本をLED蛍光灯に切り替えました。当グループは社屋全体を3社で共有し使用していることから、各会社それぞれが単独でLED化を図るのではなく、使用頻度等を勘案し段階的に進めております。これまで2部署（2部屋）と今回の分で社屋の約40%がLED化されたこととなりますが、数が多いため何回かに分けての切り替えとなります。新年度この効果が表れることを期待し、さらに省エネルギー、経費削減の意識を高めていきます。



2階
グループ品質管理課



1階
業務課

10. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。但し、一部未実施の事項がありましたが、次年度には実施致します。

法令台帳兼遵守確認表

確認日：平成29年3月1日
確認者：片桐沙知子

| 区分 | No | 法令等名 | 規制事項 | 適用環境側面 | 遵守の有無 | |
|------------------|-------|-----------|---|--|------------------------------------|--------|
| 共同グループとして遵守する法律等 | 法令 | 1 | 建築物における衛生的環境の確保に関する法律（ビル管理法） | ・ 環境衛生総合、貯水槽清掃、清掃、ねずみ・こん虫等防除の業務等に関する都道府県知事への登録 | 事業活動全般 | 遵守 |
| | | 2 | 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法） | ・ 生活環境の保全上支障のないように産業廃棄物 | 産業廃棄物（金属類・廃プラスチック類・廃ガラス・廃油・木製パレット） | 遵守 |
| | | | | ・ 産業廃棄物収集運搬及び処分許可業者への委託 | | 未実施 |
| | | | | ・ 産業廃棄物の処理の状況に関する現地確認 | | 遵守 |
| | | | | ・ 産業廃棄物の運搬又は処分を他人に委託する場合のマニフェストの交付 | | 遵守 |
| | 3 | 毒物及び劇物取締法 | ・ 飛散、漏れ、流出、滲出、地下への浸透防止 ・ 適正な運搬、貯蔵の実施 ・ 事故発生の保健所、警察署又は消防届出 | 薬品の使用 | 遵守 | |
| | 4 | 消防法 | ・ 防火管理者の選任 ・ 消防設備・消防用水・施設の点検及び整備 ・ 製造所、貯蔵所又は取扱所の許可 | 消防設備の「機器点検」及び「総合点検」の実施 高圧洗浄機用ガソリン | 遵守 | |
| | 5 | 悪臭防止法 | ・ 規制基準の遵守義務 | 洗浄剤・ワックス等 | 遵守 | |
| | 県条例 | 6 | 静岡県生活環境の保全等に関する条例 | ・ 騒音規制基準の遵守義務 ・ 騒音特定施設設置の届出 | 空気圧縮機（原動機の定格出力:3.75キロワット以上） | 遵守 |
| | 浜松市条例 | 7 | 浜松市産業廃棄物の適正な処理に関する条例 | ・ 産業廃棄物の実地の確認等 ・ 産業廃棄物処理状況の報告（毎年6月末迄） | 廃棄物全般 | 遵守 |
| 事業所全般として遵守する法律等 | 法令 | 8 | 環境基本法 | ・ 公害を防止、自然環境保全 ・ 国の環境施策へ協力 | 事業活動全般 | 遵守 |
| | | 9 | 循環型社会形成推進基本法 | ・ 廃棄物の排出の抑制 ・ 国又は地方公共団体が実施する施策への協力 | 事業活動全般 | 遵守 |
| | | 10 | 地球温暖化対策の推進に関する法律 | ・ 温室効果ガスの排出の抑制 ・ 国や地方公共団体の施策への協力 | 事業活動全般（電力・ガス） | 遵守 |
| | | 11 | 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法） | ・ 使用済自動車の引渡義務 ・ 再資源化預託金等の預託義務 | 事務所・控室内のテレビ・冷蔵庫・洗濯機の廃棄物 | 遵守 |
| | | 12 | 使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法） | ・ 使用済自動車の引渡義務 ・ リサイクル料金の負担 | 自社保有の自動車車両廃棄 | 遵守 |
| | | 13 | 資源有効促進利用に関する法律 | ・ 再生資源及び再生部品の利用 ・ 製品の長期間使用の促進 ・ パソコンの適正な排出 | パソコンの廃棄 | 遵守 |
| | | 14 | フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律（フロン排出抑制法） | ・ フロン類の管理の適正化 ・ 廃棄する場合の第1種フロン類充てん回収業者へのフロン類を引き渡し義務 | 事務所屋上設置コンプレッサー(5.6kw、2台) | 遵守 |
| | | | | ・ 第1種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項（エアコンディショナーの簡易点検及び定期点検の実施） | | 未実施 |
| | | 15 | 国等による環境物品等の推進に関する法律 | ・ 環境物品等の購入 | グリーン購入の推進 | 遵守 |
| | | 県条例 | 16 | 静岡県環境基本条例 | ・ 環境への負荷への低減、公害防止、自然環境保全措置の実施 | 事業活動全般 |
| 浜松市条例 | | 17 | 浜松市環境基本条例 | ・ 公害の防止、環境への負荷の低減の実施 | 事業活動全般 | 遵守 |
| | | 18 | 浜松市廃棄物の処理及び清掃に関する条例 | ・ 廃棄物の減量努力・適正処理 | 廃棄物全般 | 遵守 |
| | | 19 | 浜松市快適で良好な生活環境を確保する条例 | ・ 快適で良好な生活環境 ・ 市が実施する迷惑行為の無い快適で良好な生活環境の確保に関する施策への協力 | 事業全般 | 遵守 |
| | | | | ・ 静穏な生活環境の保持 ・ 悪臭の少ない生活環境の保持 | | 事業活動全般 |

2. 違反、訴訟等の有無

関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情はありませんでした。

11. 代表者による総評

業務拡大により仕事量が増加する中、それに伴い業務遂行のためのエネルギー使用は不可欠であり、それをいかに削減するか、目標設定のから達成の道筋が明確かつ分かりやすいものでなければいけません。年間を通じデータの収集分析によって自分たちの行動を振り返り改善を図る PDCA サイクルの基本は経年によって身につけているものと思われ、だれもが取り組みやすい状況になってきていると感じます。

本年度からは、「浜松市エコドライブ認定制度」に参加しエコドライブ実践事業所の認定を受けたこともあり、ガソリン及び軽油使用量については、総量に加えて『燃費の環境効率指標』による指標を導入し、より企業活動に即した状況把握ができるようになったことも、これまでの取り組みをより進化させたものと評価します。

また、この取り組みが基本となり社内業務においても効率的な業務につながり、当グループ3社それぞれの社業において有効的であるよう PDCA サイクルを実行することでよりよい社内環境づくりを行いお客様へのサービス向上に繋げて参ります。

当グループは、省資源・省エネルギーをより推進し、出来る限り環境に負荷をかけないよう環境整備を担う業務を通じて、お客様や近隣等周囲の皆様に対しどのように貢献していけるかを考えて参ります。また、関係法令を遵守し規律をもって一層の環境保全を推進します。



平成29年 5月 8日
代表取締役 有賀 公哉

エコアクション21 環境活動レポート Vol.8

活動期間 2016年4月～2017年3月

発行年月 2017年5月

発行 共同グループ

〒435-0015 静岡県浜松市東区子安町315-13